

シスプラチンの先発品と後発品を比較する報告

	情報の概要	情報源
1	シスプラチンの先発品使用例250例、後発品使用例240例を対象として、治療中の血清クレアチニン増加の程度と発現率をレトロスペクティブに調査したところ、CTCAE version 3.0グレード1以上の血清クレアチニン増加の発現率は、後発品に比べて先発品で高かったが、腎障害の発現率の差は、癌の種類による影響が強いと考えられた。	西村美子、他(国立がんセンター東病院 薬剤部) P-1-20 シスプラチンの先発医薬品と後発医薬品における腎障害の比較 日本病院薬剤師会関東ブロック第38回学術大会(2008.8.23、24)
2	胸部悪性腫瘍患者をシスプラチン先発品使用群296例、後発品使用群321例に分けて、腎障害の発現についてレトロスペクティブに調査を行った結果、後発品使用群で腎障害が多く認められた。 (平成22年度第1回医薬品等安全対策部会 資料4-6より)	関根郁夫、他(国立がんセンター中央病院 肺内科) O1-065 シスプラチンによる腎障害:先発医薬品と後発医薬品の比較 第8回日本臨床腫瘍学会学術集会(2010.3.18、19)
3	2000年11月から2008年4月までに、シスプラチンを含む化学療法を受けた胸部悪性腫瘍患者1296例(先発品使用例499例、後発品使用例797例)を対象として、全コース中の血清クレアチニン増加の程度と発現率をレトロスペクティブに調査したところ、後発品使用例で軽度の腎障害が多かったが、中等度以上の腎障害の発現率に差がなかった。	仁保誠治、他(国立がん研究センター東病院 呼吸器腫瘍科) O-146 シスプラチンの先発医薬品と後発医薬品による腎障害の比較 肺癌第51回日本肺癌学会総会号(2010.11.3、4)

